

# 教育DX推進プラットフォーム事業

## 現状

- ・令和4年度よりICT教育サポーター育成プラットフォーム運営事業で、40名弱のICT教育サポーターが県立学校を訪問し教員のICT活用等を支援。
- ・支援内容は、環境整備支援、授業支援、研修支援で、「サポーター活動の効果がある」と約9割の教員が回答し、**業務の継続が求められている**。
- ・最近の教員からの依頼内容は、より**専門性が求められる生成AI等の先端技術活用**や**情報モラル**や**情報セキュリティ**研修等多岐に渡り高度化している。

## 課題

- ・教員のICTスキルは年々向上しているものの、**校務や授業で「クラウドの活用ができていない」と回答した教員が高校3割、特別支援7割**。
- ・校務や授業で十分に活用できていない学校に対し、**現状に応じた具体的な利活用方法を提案・支援し、端末活用を定着させる**ことが必要。
- ・特別支援学校においては、**生徒の特性に応じたICT機器が導入されており、その有効な活用が課題**。
- ・さらに日々発展する**AI等の先端技術活用について、教員だけでの対応は厳しく、専門的な知識・技能を持った人材等の外部の支援が必要**。
- ・タブレット端末の劣化による**故障が年々増加**しており、**環境整備にかかる教員の負担軽減**からサポーターやGIGAヘルプデスク等の**継続支援が必要**。

## 取組みの方向性と施策

### 教員や生徒がICTを活用し、生徒自身が主体的に学習できる教育DXを目指して

#### (1)ICT教育サポーター(県立学校)

##### これまでの主な業務

- ・教員へのアプリ操作説明・操作支援、他
- ・生徒端末へのアプリ配信などの環境整備
- ・ネットワーク接続、機器の不具合、パスワード忘れ等のトラブル対応

対象：県立学校59校  
+ 定時制4校

学校の現状やニーズに応じ、訪問回数・支援内容を調整  
今後、中心となる支援業務

##### ①ICT向上

教員が授業でICTを活用できるよう支援

##### ②日常化推進

教員が校務や授業で日常的にクラウドを活用できるよう支援

##### ③DX強化

教員や生徒が校務や授業で生成AI等の新たなツールを活用できるよう支援

##### 特別支援学校

生徒の特性に応じ、ICT機器を授業で活用できるよう支援

##### 定時制高校

教員が授業でICTを活用できるよう支援

##### 遠隔教育受信校

遠隔授業の受信校側で機器操作等の支援

#### (2)GIGAヘルプデスク(県立学校)

相談員2名 月～金まで、教員からの電話やメール等による相談対応

①タブレット端末・NW等のQA対応、②タブレット初期設定やセキュリティ対策、端末管理等

<新しい取組> ◆Zoomによる遠隔相談対応

◆ よくある質問の回答をウェブページ等に掲載  
いつでも参照できるよう教員へフィードバック

## 成果

- ①教員のICT活用指導力の向上
- ②生徒の「主体的・対話的で深い学び」のさらなる実現
- ③生成AI等の利活用による創造性を育む学びや校務の効率化の推進

連携して対応

## 教育DXの実現

教員や児童生徒がデジタルを適切に活用し  
問題解決や価値創造ができる